

日タイロングステイ交流協会

Thailand-Japan Longstay Promotion Association

Newsletter



創刊号
No.1

April 2005

日タイ ロングステイ交流協会 会報（創刊号）

目 次

Contents

* 日タイ ロングステイ交流協会の発足にあたって	会長 太田 博	1
Launching of the Thailand-Japan Longstay Promotion Association		
* ロングステイと日タイ ロングステイ交流協会設立	理事 椋澤 一	2
Longstay and establishing the Thailand-Japan Longstay Promotion Association		
* タイ王国 ロングステイのお勧め	会員 勝田久男	4
Recommending Longstay in Thailand		
* 在タイ日本国大使館 2004年タイ国における日本人犯罪被害状況		7
News from Japanese Embassy in Thailand: Crime victim report of Japanese nationalities in Thailand in 2004		
* タイ観光庁から ムアンタイ 第37号		別紙
News from Thailand "Muangthai" (No.37) as per enclosure		
* タイ王国 ロングステイアドバイザーの知識(1)	会員 上東野幸男	8
Longstay Adviser's Knowledge (1) Numeric Value		
* 活動状況 Activities		
1. セミナー 「タイ人と日本人」 レジメ	齋藤親載氏	9
2. 協会・役員・会員の活動	事務局	10
* 役員一覧表(3月31日現在)	事務局	11
Executive Board Members (March 31, 2005)		
編集後記	事務局	12
Editor's Note		

<表紙> (写真：タイ王国 国花ゴールデンシャワー)

<裏表紙> (写真：在日タイ王国大使館 2005年 ソンクラーン祭)

日タイロングステイ交流協会の発足にあたって

会長 太田 博

この度日タイロングステイ交流協会が発足の運びとなったのは同慶の至りです。

私とロングステイとの関わりはタイ在勤時代に遡ります。私は1996年9月から3年余り日本の大使としてタイに在勤しましたが、タイ在留の邦人の方々と話さずには、退職後タイに住みたいと考えている人が多いことに気付きました。そこで大使館内に非公式な研究グループを設置、各方面から意見を聴取し、タイのロングステイは多くの人の夢であることを知りました。

考えてみれば、我々日本人にとってタイは大変魅力的な国であります。なによりも仏教国であることからくる親近感があります。タイ人の優しさは日本人の琴線に触れるものです。日本とタイの経済関係は極めて密接です。ナムプラをベースにしたタイ料理は日本人の好みの味です。そして物価は極めてリーズナブルです。

一言で言えばタイは我々日本人にとって居心地のよい国なのです。

ロングステイとは言ってみれば如何に有意義なシニアライフを過ごすかということではないでしょうか。我々日本人が「ほっとできる」タイでのロングステイに憧れる日本人が多いのは当然だと思うのです。

問題はこの可能性をどうやって実現させていくかです。ロングステイは年配者が外国生活をすることです。ですから、しっかりしたインフラを確保する必要があります。日タイロングステイ交流協会の任務は楽しいロングステイが過ごせるような条件、環境を確保することにあると思います。

そのためにはタイ側との密接な協力が不可欠であります。幸い在京のタイ大使館、特に大使の全面的なご理解とご協力を得ることができ、心強いかぎりであります。この機会に前代のカシット大使、現在のスイット大使に衷心より感謝申し上げます。

協会が日タイ両国間のロングステイの交流と発展に貢献できますよう、皆様のご理解とご協力を御願い申し上げます。

Launching of the Thailand-Japan Longstay Promotion Association

Hiroshi Ota, Chairman

I am pleased to see that the Thailand-Japan Longstay Promotion Association has come to be launched.

My association with longstay goes back to the days of my service in Thailand. I served as Ambassador of Japan in Thailand for some 3 years since September 1996. During my stay in Thailand, I found out, as I got in touch with many Japanese working and staying in Thailand, that many hoped to remain in Thailand after retirement. I set up an informal study group in the Embassy and listened to the views of Japanese in various walks. I found out that many dreamed of staying long in Thailand.

For us Japanese, Thailand is a very attractive country. We feel familiarity with the Thai people as both of our countries are Buddhism-based. Thai hospitality touches the heart of the Japanese. We enjoy very close economic relations. Thai food, which is based on the seasoning of Nam Plaa, is to our liking. And prices in Thailand are quite reasonable.

In a word, we Japanese feel comfortable in Thailand.

I believe longstay is about spending meaningful senior life. No wonder many Japanese would like to choose Thailand where they can feel at home.

The question is how to realize such possibility. For longstay to be successful, it is necessary to provide reliable infrastructure, which is necessary for a safe and sound life of senior citizens abroad. The task of our Association is to secure conditions and environment that will guarantee pleasant longstay life.

Close cooperation with the Thai side is indispensable to fulfill such task. Fortunately we have been encouraged to have full understanding and cooperation of the Royal Thai Embassy in Japan and of successive Thai Ambassadors. I take this opportunity to express heartfelt appreciation to Mr. Kasit, former Ambassador, and Mr. Suvidhya, present Ambassador.

I would like to ask for your understanding and cooperation so that the Association make a meaningful contribution to the exchange and development of longstay in and between Japan and Thailand.

ロングステイ と 日タイ ロングステイ交流協会設立

理事 梶澤 一

2003年12月、カシット前)駐日タイ大使との会談の席上で、健全で安心な日タイ間のロングステイ推進のため、日本、タイに跨り活躍する各分野の諸機関、諸氏のご協力を得た協会設立の必要性が確認され、大使にその協力を要請し承諾を得る。

2004年3月、タイ大使館にて「タイを楽しむタベ」と共に「日タイロングステイ交流協会」の発起人総会が発起人代表(元)駐タイ大田博日本大使を始めとする約100名の出席のもと開催される。

2004年9月、前)カシット大使離任後、現)スウィット大使に設立趣旨説明とタイ大使館の引き続き協力を要請、承諾を得る。

2005年1月27日、タイ大使館にて日タイロングステイ交流協会設立総会を開催し、正式設立。会長に元)駐タイ大田博日本国大使、特別顧問に(元)駐タイ 恩田崇日本国大使、スウィット 駐日タイ王国大使、理事に日タイビジネスフォーラム会長 丸子博之氏、ロングステイ財団 理事長 菊田篤治氏等 各界の有識者8名が就任。

大使在任中にタイ国の素晴らしさを体感した大田博氏が、リタイヤメント後の日本人のロングステイ先として、タイ国を推奨したのが事の始まり。

タイ国への旅行者は年間1000万人、その内日本からは120万人。欧米人と日本人との大きな違いは滞在期間にある。

欧米リタイヤメント世代なら2~4週間に渡る滞在は珍しくなく既にロングステイは定着している。日本人の場合アベレージ小一週間程度とするならロングステイ誘致の成果糊しろの大きい日本への期待が高まるのは至極当然のこと。

2002年夏にタクシン政権はロングステイ誘致を注力テーマに取り上げ、タイ観光庁(TAT)を筆頭株主とするタイロングステイ投資会社(TLMC)設立や外国人エリートカード発行など積極誘致始まる。

それを機にタイサイドのロングステイ待望論は盛り上がっていったが2年半を経た今、その気運盛り上がりとは裏腹にいっこうにビジネスに結びつかない現実に苛立ちと失望感が生じてきているのが現状。

一方、日本でも世代的に海外で過ごすことに違和感の少ないこれからのリタイヤメント層が、年金や介護保険財政の将来の不安から円(YEN)の強さを発揮できる外国で老後を過ごすというライフスタイルを選択するのが特殊な考えではなくなり、ロングステイは一般用語になるほどに浸透する。

しかし、それを当て込む関連事業者にとって、その期待と現実とのギャップも徐々に明らかになってきている。

さてロングステイとはどの程度の期間を言うのか。諸説あるなかで、多くは、一ヶ月前後から始まり、日本の冬季をタイで過ごすと言うような季節滞在を指すが、年に跨り半ば移住的なものにも及ぶ。

したがってロングステイ対象のサービスビジネスといっても、期間によって求められるものは違ってくる。短ければ旅行に近いニーズであろうし、長期になれば不動産購入に至る多額な投資も伴う。

ロングステイ、行くも迎えるも期待と気運高まりながら取り巻くビジネスが低迷するのは何故なのか。

思うに、長期のステイを実行することは本人自身が生活のプロフェッショナルになることを意味し、余暇の一時をお任せメニューで旅する旅行者とは本質的に違うことである。始める前のビザ等々の準備や移動手段などに多少の需要はあっても、現在の現地法制下では渡航後の生活に、宿泊施設を除いてはその需要は皆無である。これからの参入を企図する事業者は、そのあたりをヒントにロングステイヤー自身ではカバーできない部分をしっかり見据えて取り組む必要がある。また付記しなければならない事は、ロングステイを食い物にする一部の事業者の不評が、関る事業者全般に不信感や胡散臭さを与え、警戒されている事実である。現地でこんな言葉をよく聞く。「日本人が日本人を騙している」・・・忌々しきことである。

以上、ロングステイの光と影を述べることになってしまったが、今後はボーダーレス化する世界潮流と日本の今後の社会構造からして水は高きから低きに流れるが如く、リタイアメント後の一時期を海外で過ごす事や、リタイアメントに限らず何かを叶えるための海外長期滞在が特別なライフスタイルではなくなると思われる。その有力な行き先のひとつが生理的相性に適い治安の良いタイなのである。

これらを踏まえ、タイを愛する日本の各界の有識者の方々の提言や会を構成するサービス事業者の研鑽と相互チェックをもって、日タイロングステイをより健全、安心、安全なものに高めながら交流推進を図っていくのがこの協会の使命と思う次第です。



タイ王国 ロングステイのお勧め

2005年4月 会員 勝田 久男

1. 最初に

小生は1992年(平成4年)5月から1997年(平成9年)7月まで約5年間をタイ・バンコクで日本企業の駐在員として生活しました。その後1997年7月に香港に異動、3年間の駐在生活を経て、2000年6月には米国西海岸に異動、そこで4年間の生活を体験しました。その後昨年4月に日本に戻って現在日本暮らしをしています。

それ以前には学生として、また企業駐在員としてニューヨークに生活したこともあります。その学生時代には欧州にも貧乏旅行を何回か敢行しました。現在ロングステイで話題になっているスペインやギリシャ、イタリアなどもその訪問先リストに入っています。

さて、ここにきてロングステイが中高年・熟年を中心に話題になってきています。筆者は普通の日本人として、いろんなところを日本人の目線でみてきました。一個人の目線で見ると、日本人が長期にわたって生活するという視点で考えると、タイは非常に得点が高いと思います。

最近では各種のロングステイの書物や資料があるので重複と思いますが、その理由として個人的な体験も含めると、以下が挙げられでしょう。

タイはアジアにあるので、同じアジア人の一人としてあまり肩肘張らなくて生活できる。

- 米国でも生活したことがありますが、考え方も生活様式も日本人は欧米人とはかなり異なります。違和感を覚えることが何度もありました。
- タイ人ももちろん日本人とまったく同じ価値観や考え方をしているわけではありませんが、アジア人が共通して持つ雰囲気、もの考え方が感じ取れます(だから価値観がまったく一緒というわけではありませんが)。
- 目線(物理的にも)が同じで気軽に生活可能です。

タイ人の性格はものごとにこだわらない。外国人に対しても緊張感なく受け入れてくれる。

- タイ人の性格、国民性は自然が豊かなせいか非常におおらかです。外国人の付き合いにも慣れており日本人のように緊張するという感じではありません。

物価が安い

- ロングステイをする上で重要なのは生活費です。最近はそれほどでもありませんが、タイの物価は依然日本と比べるとかなり割安です。
- もっとも、タイで日本と同じ食生活をすれば当然割高になるのは覚悟する必要があります(すべて日本式で通そうとする方はロングステイを希望する人にはあまりいないと思いますが)

治安が比較的良く、安心して生活できる。

- 外国人として普通の生活と行動様式をとっていれば、重大な事故や犯罪に巻き込まれることはまずないと思います。

病院が完備しており、日本語でも安心して治療を受けられる。

- 小生の子供は3人ともバンコクにある病院で生まれました。医療水準は国際的にもかなり高い水準に達していると思います(外国人は普通私立病院に行きます)。
- 日本やアメリカに留学経験のある医師(日本語も大丈夫)もたくさんいます。
- 歯科もレベルが高いです(医療機器も含めて)。しかも保険が利かなくとも日本より割安です。

日本企業の進出も含めて日本人がたくさん生活して、生活インフラがすでに整っているため、ある程度日本人的生活もやろうと思えばできる。

- タイはアジアのデトロイトと言われるくらい自動車産業をはじめとしてたくさんの日本企業が集積しています。
- この結果、駐在員やタイ好きな個人も非常に多く暮らしています。
- 日本レストランや日本食品などをはじめとして日本人向けの各種のモノ・サービスが簡単に手に入ります。

日本人同士のコミュニティもあるので適度な付き合いも可能。

- 気の合う人とかみしもを脱いで付き合いするのは大きな楽しみです。ゴルフなどの娯楽を通じて楽しめます。ゴルフなどの余暇を過ごす手段が完備している。
- タイはゴルフ天国です。
- また日本人会などの組織があり、入会すれば(世帯の一人目の会員 300 バーツ = 約 840 円、世帯の一人目の会員 100 バーツ/月 = 約 280 円/月と安い)、日本の図書無料貸し出しやレストランの利用などができます。
- 日本人会には囲碁や将棋などの同好会もあります。

食事は老後の楽しみの一つだが、世界各地の料理がバンコクを中心にあふれている。日本料理もたくさんある。

- バンコクの日本料理レストランは今までの総合レストランから既に専門店化に移行しています。とんかつ専門店やそば専門店、ラーメンに至ってはとんこつ専門店にまで分化しています。
- イタリア料理もたくさんあります。これは日本より安くておいしいといえます。なぜならイタリア人のシェフがやっているところも多いからです。ヨーロッパ人はタイが大好きで、そのままタイにいてビジネス(レストラン)をはじめの人がたくさんいます。

タイ人の持つ性格のゆえか、緊張した人間関係の中ではなくリラックスして雰囲気の中で生活を楽しむことができる。

- タイに行かれたことのある方は経験済みだと思いますが、精神的にリラックスして生活できます。
- 夕刻近くになって、だんだんと暮れなずむ町並みをみながら飲むビールは最高です(直接関係ないかも知れませんが)

タイを基地にしての各地への旅行

- タイは東南アジアのハブ・中心地です。今人気の出ているベトナムやミャンマーなどの周辺国やオーストラリア西側のパースなどには割安で行くことが可能です。

2. タイの中でどこが良いのか？

それではタイの中で具体的にどこに住むのに良いかということですが、候補としては、バンコク、チャンマイ、海辺のリゾート、例えば、ホアヒン、プーケット、パタヤ、などかと思います。

各々の予算、本人の志向(都会が良いのか、田舎暮らしが好きなのか、海が好きか山が好きか)、健康状態、言葉、などを考慮する必要があります。結局は本人が実際に行ってみて検討する必要があると思いますが、やはり最初はバンコクかあるいはバンコクから陸路(車)で行ける近隣が良いのではないかと思います。その理由は上記に書きましたことと関連しますが、生活面・医療面で便利なためです。

バンコクについては、各種の情報がありますのでここでは書きませんが、ひとつお勧めなのが、ホアヒン

やパタヤなどのバンコク近辺の海浜リゾートです。特にホアヒンはバンコクから車で2時間～2時間半程度の近場
にありお勧めです。その理由を箇条書きにしますと、

バンコクにいつでも短時間でいつでも簡単に行けるのはやはり大きな利点。
欧州に特に知られた海浜リゾートであり、海辺独特の開放感がある。
それでいてタイ田舎の独特のゆるやかな時の流れがある。
国王の離宮があることから、警察などもしっかりしていて治安が非常に良い
(国王は特にこの離宮を好まれている様子)。
病院も私立も含め完備している(筆者も実際に行ったことがあるが問題ない)
ホテルや別荘がならぶ海浜リゾートとして、欧州人観光客に知られているので外国人が意外に多
い。
従って、外国人に対する違和感が少ない(と筆者は考えます)
外国人観光客も多いことから、レストラン(特にイタリアン、ドイツ料理)が田舎にしては多く、味も値
段も非常にお勧め。日本レストランもある。
海辺であるので新鮮な魚介類が手に入ることから、海鮮料理店も海辺沿いに
何店もあり味も良い。
ナイトバザール(夜店・屋台)があり楽しめる。
整備された一流のゴルフ場がたくさんあり、割安な価格で楽しめる。

以上を要約すると、ホアヒンはタイの田舎の雰囲気と高級リゾートの雰囲気を安価で安全に味わうことが
できる、しかもいざとなればバンコクにすぐ行ける、ということでしょうか。

同じことがパタヤについても言えますが、もともと米軍の保養地として発展したという経緯から落ち着いた
雰囲気欠けだと思います。ただし、パタヤもいろんな面で開発が進み、騒がしい雰囲気から落ち着いたリゾート
に変わりつつある、というのが筆者の印象です。また近々オープンする新国際空港にも近いのも長所です。

パタヤを更に東に行ったカンボジア方面にラヨンというところがあります。ここもリゾートとして徐々に知ら
れてきているところですが、住居、物価などコスト面で大変お勧めです。ただし総合的に考えると、やはりホアヒン
とホアヒンからバンコクにすこし戻ったところにあるチャムがお勧めです。ラヨン地域はタイに慣れればお勧めで
きる場所です。

3.最後に

どこが住みやすいのか、どこに住んだ方が良いのかは結局生活する本人が決めることです。実際に短期
間でも住んで決めればよいことです。

この際留意したいのは、そこしかないと思わず、駄目だったら他に移ればよい、という気軽な
気持ちを持つことです。日本人は真面目なので一度決めるとなかなか変更を嫌がると思いますが、嫌
だったら気楽に変えることです。タイはそういうところですし、ロングステイはそのように考えることが重要だと思いま
す

タイに住んで、嫌なことに思いを寄せたり、考えたりする必要はありません。タイ人のマイペン
ライ(気にしない、問題ない)という言葉が象徴するように、気楽に、意に染まないことはできるだけ
しないで生活することがロングステイの秘訣だと思います。また長生きに必要なことではないでしょうか。

2004年 タイ国における日本人犯罪被害状況

在タイ日本国大使館 領事部資料

- 第1位 スリ・置き引き 352件
(ワンポイント アドバイス)
多額の現金を持たない。財布などの入ったバッグに異常(ナイフ等で切られているなど)が無い点検する。人混みの中では、リュックサックなどのカバンは体の前に持つようにする。
- 第2位 いかさま賭博 91件
(ワンポイント アドバイス)
初対面の人に声をかけられてもついて行かない。タイではギャンブルは違法行為であり、仮に賭博行為中に警察に発見された場合、現行犯として逮捕されます。
- 第3位 宝石・洋服詐欺 46件
(ワンポイント アドバイス)
常にリスク(欠陥)があると考えて購入する。事前に多くの情報を集めて信用のある店で購入するよう心がける。

(参考)

2004年におけるパスポートの盗難や紛失件数は 162件です。
パスポートを失くしたことが判明したら、まず冷静に何処で最後に旅券見たかを思いだし、それ以降に行動した場所などに電話などで確認すると案外出てくるともあります。
空港、ホテル、レストラン、デパートなどに複数回電話をかけて確認することも大事です。そして旅券を発見出来たら、全てのページがあるかどうか確認して下さい。

安全対策の基本的な心構え

心構え 「自分の身は自分で守る」
三原則は「目立たない」「行動を予知されない」「用心を怠らない」
予防が最良の危機管理である
タイの法律を遵守し、タイ国の文化・風俗や価値観を尊重する。
心と体の健康管理に留意する

会員 上東野幸男

- ・ タイ国は米の輸出が世界第(1)位である。
- ・ 日本の輸入品目の中、鶏肉(冷凍)や海老(調理済)はタイが第(1)位である。
- ・ タイ国の国土面積は日本の(1.4)倍である。
- ・ タイ国への外国人観光客では、日本人は(マレーシア人に次いで)第(2)位である。
- ・ チェンマイは第(2)の都市と言われるが人口は5番目である。
- ・ タイ国と日本との時差は(2)時間である。
- ・ タイ国の国旗は「白象」から1917年に(3)色旗(5条)になった。中央の青が王室、白が仏教、赤が国民を表す。
- ・ 1バーツは約(3)円である(4月下旬 2.8円)。
- ・ タイは乾季(11~2月)、雨季(3~5月)、雨季(6~10月)の(3)季節である。
- ・ タイ国はミャンマー、ラオス、カンボジア、マレーシアの(4)国に国境を接している。
- ・ タイのお正月のソンクラーン(水掛祭り)は最も暑い(4)月中旬である。
- ・ タイの最南端は北緯(5)度に位置する。
- ・ タイの人口は約(6)千万人である(日本の半分)。
- ・ タイの国歌は朝(8)時と夕(6)時に流される。その時バンコク中央駅では待合客は起立する(なお 映画館では最初に国歌が流れて観客は起立する)。
- ・ 毎日午後(8)時台ゴールデンタイムに王室関連のTV放送がある。
- ・ プミポン国王は ラマ(9)世であり、世界最長の在位58年である。
- ・ (9)はタイではお目出度い数字で結婚式などお祝の僧侶は9人である。
- ・ アセアン(東南アジア諸国連合)はタイ国を含め(10)ヶ国である。
- ・ バンコク市内のスカイトレイン(BTS)、地下鉄の運賃は(10)バーツからである。
- ・ ロイカトーン祭(灯籠流し)は(11)月である。
- ・ タイ文字の母音は(32)、子音は(42)である。
- ・ タクシーの初乗りは(35)バーツである(2バーツ刻みで上がる)。
- ・ タイ国へのロングステイビザ(OA)は(50)歳以上、年金ビザ(Oビザ)は60歳以上。
- ・ タイの県(チャンワット)は(76)である。
- ・ タイ人の仏教徒の比率は(95)%である。
- ・ 最低賃金(1日)は県別に異なり、首都圏(175)バーツ~最低(137)まで。
- ・ 電気は50Hz (220V)で日本製品はトランスが必要である。
- ・ タイ国会は上院が(200)名、下院が(500)名の議員である。
- ・ 山田長政がアユタヤ王朝で活躍したのは(1600)年代である。
- ・ タイ人一人当たり国民所得は約(2,200)ドル(日本人は約33,000ドル)

タイ人と日本人

講師 斎藤親載

- 1 「タイ」のイメージの変遷
瘧癘(しょうれい)の地から、都下バンコク郡へ
- 2 日本人社会の概況
- 3 企業と人を惹きつける「タイ」の魅力
 - (1) 政治経済面のこと
 - (2) 相性の良さ
- 4 タイの文化の二面性と国民性
 - (1) タイ人とは?
 - (2) 対蹠的なインド文化と中国文化
 - (3) タイ人氣質と民族の特性
 - ア. 「マイペンライ」と「マイミーパンハー」
 - イ. 無限の柔軟性(起きあがりこぼし)
 - ウ. S E C (slow, easygoing, corruptive)
 - エ. 国王崇拜、仏教帰依

etc., etc.
- 5 似て非なる、日タイ生活習慣のちがい
- 6 タイ人に対して してはいけないこと、留意事項
- 7 タイ人は日本、日系企業、日本人をどう見ているか
- 8 タイで生活する場合のまめ知識いろいろ
- 9 変りつつあるタイの治安(so far, 体感治安はよし)
 - (1) タイ南部テロ続発の背景
 - (2) 一般治安状況 いろいろ
 - (3) シラム湾とアンダマン海の海賊
- 10 ロングステイに関するアドバイス

註：瘧癘：マラリア等の風土熱病

* なお 講演内容につきましては 斎藤様のご承認を得ましたので、次号の会報に掲載致します

協会・役員・会員の活動

* セミナー

- 1 協会セミナー（第1回） 「タイ人と日本人」 講師 斎藤親載氏
参加者 44名（懇談会32名）
- 2 NPO 新現役ネット(岡本行夫理事長)の「海外ステイ研究会」セミナー
「微笑みの国 タイ国のロングステイ」4月13日・講師 上東野幸男
- 3 クラブツーリズム(株) 「タイ生活体験セミナー」
「ロングステイのお誘い 微笑の国・タイ」4月23日・講師 上東野

* 協会設立広報活動

- 1 在タイ日本国大使館 時野谷特命全権大使、山田公使
3月21日(月) 太田会長、椋澤理事、上東野
- 2 盤谷日本人商工会議所(JCC)松本事務局長
3月23日(水) 椋澤理事、上東野事務局長
- 3 JCC 野呂会頭(泰国三菱商事社長)
3月23日(水) 椋澤理事、上東野事務局長
- 4 泰国日本人会 磯田事務局長
3月22日(火) 上東野事務局長
- 5 (タイ国)協会評議員 Prof.ソムアツ(BKK病院)
3月22日(火) 太田会長、椋澤理事、上東野
- 6 (タイ国)協会評議員 Dr. ナロン(タイ国抗老化学会)
3月20日(日) 椋澤理事、上東野事務局長

* 資料送付(関連団体・機関)

- 1 秋田リタイヤワールド懇話会(代表 近藤博)
- 2 (株)団塊倶楽部(代表取締役 佐々木成人) 3月入会申込
- 3 タイ伝統医療振興財団(ウティキット理事長)
- 4 IMO インターナショナル(株)(広島)
- 5 (株)メディカルリリーフ(長崎) 4月入会申込(予定)
- 6 タイロングステイ日本人の会(バンコク)
- 7 リタイアメント ビジネス ジャーナル 「総会を3月号に掲載」

日タイ ロングステイ交流協会

Thailand Japan Longstay Promotion Association

- 設 立 2005年1月27日
- 目 的 協会はタイ王国と日本のロングステイ関連事業者に対し、タイ王国でのロングステイヤーに公正で最新の情報と適正なサービスを提供できるよう支援し、健全で安全なロングステイを促進する。
- 役 員
- | | |
|------|--|
| 会 長 | 太田 博 (元駐タイ日本国大使) |
| 特別顧問 | スウィット シマサクン (駐日タイ王国大使)
恩田 宗 (前アセアンセンタ - 事務総長、元駐タイ日本国大使) |
| 理 事 | 太田 博 [理事長]
石山 醇 (日本旅行業協会理事・事務局長)
岡部 徹 (NHK 解説主幹、元 NHK バンコク支局長)
小野桂之介 (慶応義塾大学院教授・工学博士)
桜澤 一 (株式会社リエイ 代表取締役)
菊田篤治 (財団法人ロングステイ財団 理事長)
丸子博之 (日タイ・ビジネスフォーラム会長、BKK 銀行顧問)
鷲尾悦也 (全国労働者共済生活組合連合会理事長、前連合会長) |
| 監 事 | 吉井 功 (ヒルトン東京ベイ顧問) |
| 評議員 | 渥美和彦 (東京大学名誉教授)
阿部和義 (経済ジャーナリスト)
荒井正吾 (参議院議員)
植田栄子 (東京大学・早稲田大学講師)
豊岡陸男 (読売・日本テレビ文化センタ - 代表取締役会長)
宇田川勝 (法政大学教授)
チャルブン パナノン (タイ王国政府観光庁 東京事務所長)
ソムアツ ウォンコムトン (バンコク病院 副理事長)
ナロン ニムサクン (タイ王国抗老化学会 会長) |
| 事務局長 | 上東野幸男 (日タイ ビジネスフォーラム ロングステイ委員長) |

(2005年3月31日現在)

編集後記

創刊号の発行が桜花よりもかなり遅れましたことお詫び申し上げます。

3月下旬プーケットに行き各ビーチを見てまいりました。最も人気があり最も古く、被害が甚大のパトン・ビーチは、嘗て多彩なパラソルが縦横に開き海岸全体が見えない状況でしたが、20日(日)は写真のように閉じたパラソルが整然一列に並び4kmの白砂が見渡せ、欧米人がわずかに居る状況でした。被害の無かった北部ナイ・ヤン・ビーチのホテルでも客は西欧人の長期滞在がメインでした。同時期プーケットを訪問したタイ国大使館(広報担当)のナーナパーン一等書記官と会報の打合でお会いしましたが、彼女から「被害者多数の北欧・西欧からの観光客は多いのに、被害者が僅かの日本人が来ないのは何故か」との質問があり、「日本人の心情」の話題がひとしきり盛り上がりました。

「プーケットへ行くことが最大の支援になる」との意見には耳を傾けましょう。

一方 バンコクは地下鉄利用客も増加しているようですが、タクシーの増加もあり渋滞は昔に戻った感じがしました。

第1回のセミナーはタイ国駐在17年、永住ビザも取得され「バンコク駐在物語」「タイ人と日本人」「タイの鼓動」等の著書のある斎藤親載氏に「タイ人と日本人」のお話を頂き好評を博しました(内容は第2号に掲載予定)。

ほかの協会活動と同様に会報も試行錯誤で進行しております。事務局は役員並びに会員各位からのご意見・ご要望をお待ちしており、また同時に積極的なご投稿を期待しております。

(事務局 上東野)



日タイ ロングステイ交流協会 事務局

〒279-0012

千葉県浦安市入船 1-5-2 明治安田生命新浦安ビル 15F

株式会社 リエイ インターナショナル事業部内

TEL: 047 (355) 9000 FAX: 047 (305) 7848

(株)リエイの組織変更により、4月1日より
事務局はインターナショナル事業部内になりました。